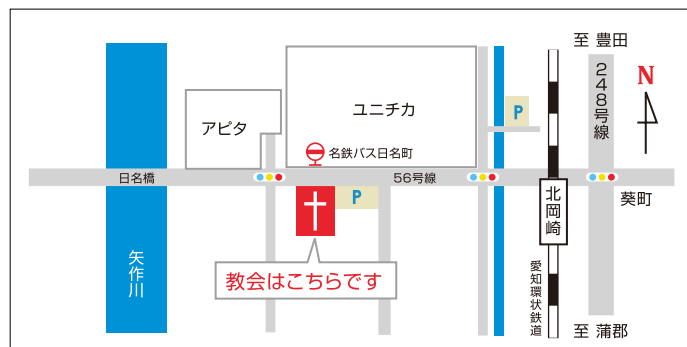


BIBLE + MESSAGE

ばらまいても、なお富む人があり、正当な支払いを惜しんでも、かえって乏しくなる者がある。(箴言 11 章 24 節)

聖書のなかには、しばしば逆説的な教えが見られます。富む人になろうとするならば、自分の手元にお金を蓄えておかなければなりません。これが普通の考えです。ところが聖書は「ばらまいても、なお富む人がある」と教えています。「ばらまく」と言っても、無駄遣いをするという意味ではありません。別の翻訳では「気前よく施す」となっています。つまり、困っている人を助けるという意味です。そのようなおおらかな心の人、恵み深い人には、神様からの祝福があるので、ばらまいても、なお富む人になるのだと聖書は教えているのです。反対に、正当な支払いを惜しむ人、自分のことしか考えず、他の人のことを省みない人は、神様からの祝福を失い、かえって貧しくなるのです。以前に紹介させていただいた「受けるよりも与えるほうが幸いである」という聖書のみことばも、このことを教えています。聖書が教える本当の富、豊かさとは、自己中心を離れ、他の人のために生きるところにあるのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

聖書を読んだ日本人

前号で紹介した大原孫三郎に、多大な影響を与えた石井十次という人がいます。彼は日本で初めて孤児院を設立した人物で、「児童福祉の父」と呼ばれています。

1865年、十次は宮崎県の下級武士の家に生まれます。彼は4歳で寺子屋へ入り、6歳からは明倫堂（現在の高鍋町立高鍋東小学校）で学びました。明倫堂は名君として名高い秋月種茂が設立した学校で、年配者を敬い、親を大切に、災害時には皆で助け合うといった徳を重んじる気風があったそうです。この学校での学びが、十次の人格形成に大きな影響を与えました。また、十次は母親からも大きな影響を受けたようです。彼の母親は心優しい女性で、近所

の貧しい家や親のいない子どもたちを、いつも助けていました。そんな母親の背中を見て育った十次もまた、困った人を放っておけない性格になっていったのです。

十次と彼の母親の優しさをあらわす「縄のおび」というエピソードがあります。十次が7歳のころの出来事です。十次は母親に新調してもらった紬の帯を締めて、祭りに出かけました。すると、友人の松ちゃんが泣いているのを見かけます。家が貧乏な松ちゃんは、ボロボロのゆかたに縄の帯を締めて遊びに来ていたところ、何人かの子どもたちから、いじめられて泣いていたのです。そのとき十次は、母親に作ってもらった新しい帯を松ちゃんに渡し、自分は縄の



高鍋東小学校に残る明倫堂時代の門柱

帯を締めて、松ちゃんを励ましたのでした。家に帰った十次は、おそるおそる事の成り行きを母親に話しました。すると母親は「良いことをしたね」と、頭をなでて褒めてくれたのです。

さて、そんな十次ですが、17歳のときに人生の転機を迎えます。荻原百々平（おぎはらどどへい）という医師が「医師になって多くの人を救ってみたいか」と十次に勧めたのです。（次号に続く）



石井 十次
(いしいじゅうじ)
1865年～1914年